

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101774		
法人名	社会福祉法人聖母会		
事業所名	グループホーム聖母の丘 ゆうかりユニット		
所在地	熊本市西区島崎6丁目1番27号		
自己評価作成日	令和6年3月1日	評価結果市町村受理日	令和7年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1
訪問調査日	令和7年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで明るい環境の中、入居者が穏やかに安心して過ごされることを目標に、職員は、入居者個々の想いに寄り添い、ご家族との絆を大切にしてお本人が望む生活ができるよう支援している。面会は時間や人数制限、感染対策を講じた上で玄関で面会を行っており、ご本人とご家族の触れ合いができています。2か月に1回写真付きのお手紙で入居者の近況をお伝えする事も継続し、面会に来られないご家族から入居者の生活の様子がわかると喜びの声が聞かれた。個別ケアで課題が生じた時には職員間で話し合い、ご家族に適宜相談報告し、ご家族の想いを伺いながらご家族と共に入居者を支え合う関係づくりに重点を置いて支援している。入居者の重度化、高齢化により、ご本人やご家族の希望で看取りにも取り組んでいる。看取りの際は職員・ご家族、医療関係者と何度も話し合い、協力しながら「ご本人やご家族が望む最期の時」を過ごすことができるよう支援してきた。昨年度目標としていた地域活動も、運営推進会議の開催と防災訓練への地域住民・民生委員さんの参加で行うことが出来た。今後も認知症ケアの専門性を職員個々が高め、職員同士認め合い、支え合いながらより良いチームケアができることを目標とし、入居者様の幸せのため努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「想いに寄り添う」「絆を大切に 社会貢献」「感謝の気持ちを忘れずに」の3項目を理念とし、それぞれの入居者に合わせた対応を大切に支援している。介護ロボット「Hug」を導入し、移乗動作や立位保持をサポートしており、入居者及び介護者の負担軽減を行っている。また、浴槽は、一般浴と2種類の機械浴を設置しており、入居者の状態に合った浴槽を使用し、全員が湯船に浸かることができています。コロナ禍以降、敷地外への外出の機会は多くはないが、毎月行事やレクリエーション等を実施している。「忘年会」ではおかしやカップ麺などを売る模擬店を開き、それぞれに財布と買物券を作って買い物を楽しみ、家族との触れ合いを目的とした「お楽しみ会」では、各家族で計画を立て、家族と一緒に散歩をした人、自宅に戻って食事をした人、外食をした人など、それぞれに家族との時間を楽しんでいる。来年度は認知症カフェを再開したいとしており、地域との交流もさらに広がっていくことが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を自然な形で意識付けできるように、玄関やキッチン等に掲示している。また、グループホーム部会時に職員皆で唱和を行い、その理念を共有して実践につなげている。	「想いに寄り添う」「絆を大切に 社会貢献」「感謝の気持ちを忘れずに」の3つの理念は、玄関・キッチン等に大きく分かり易く掲示され、毎月のグループホーム部会で唱和し、方針を確認している。入居者の想いに寄り添い、リハビリ・レクリエーション・入浴など生活の各場面で、それぞれに合わせた対応を心掛けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が事業所の畑を利用して野菜を作られたり、隣接する幼稚園の子供たちが芋の苗植えから収穫まで行われたのでその様子を見守り交流した。 また、火災訓練に2名の民生委員さんをお招きし非常時の協力をお願いした。	ボランティアによるホームの畑の野菜作りや、隣接する保育園児たちの芋の苗植え・芋ほりなど、入居者は見学しながら交流している。また、毎月の民生委員の例会や、城西地区の子育て支援の活動等にルルドホールを開放する等の地域貢献も行っている。7年度中には、法人として認知症カフェを再開したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和2年2月からコロナ感染防止対策の為認知症カフェや介護家族の集い(ルルドカフェ)は開催できていないため、認知症の理解や支援方法を地域の人々に向けて活かすことはできなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策を施した上で、委員の方々に集ってもらい2ヶ月に1回の開催を全て実施する事ができた。 面会の方法など会議で出たご意見を参考にさせて頂いている。	運営推進会議は、入居者・家族・社協・自治会・老人会・民生委員・地域包括等を委員として、対面で実施されている。日常の風景、苦情・事故、行事、職員研修等の報告の後、地域行事等のお知らせや意見交換が行われている。会議では、委員全員にご意見等を出してもらうようお願いしている。面会の方法など、苦情対応についてのアドバイスなどもあり、意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	熊本市からメールで送られてくる情報等は全職員が閲覧できる取り組み(チームスの活用)がなされているため確認している。	市からの連絡は、主にメールで送られてくる。運営上の疑問点などはFAX・電話で質問し、適宜適切に回答を得ている。包括職員は運営推進会議に出席しており、ホームの状況を把握している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、玄関周辺に職員がいない事も多く目が届かない現状でもあり、建物の構造上防犯・安全対策としても施錠がなされている。又、夜間に関しては事故防止の為に必要に応じてセンサーを使用している。	職員は、年2回の身体拘束廃止に関するweb研修・入職時研修を受講している。法人内の身体拘束適正化委員会では、各部署からグレーゾーンの事例などを出して検討し、決定事項等は各部署に持ち帰って話し合いを行っている。また、年2回、虐待についてのアンケートを実施し、不適切ケアが行われていないか現状を振り返り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてオンライン学習教材を活用して学ぶ機会があり、言葉遣いに留意したケアを行っている。職員個々については虐待についてのアンケートが事業所全体で定期的に行われている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はないが把握しておく必要はある為、適宜学ぶ機会を設けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や改定時の契約締結は、計画作成担当者および管理者が行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍において可能な限りご家族来所時に日頃の様子を伝えて意見や要望を確認したり、各居室担当者からも適宜ご家族に電話をかけて情報交換を行い連携を図っている。又、玄関に意見箱の設置も行っている。	面会時や電話連絡の際に、近況報告をし、意見・要望等を尋ねている。「居室でゆっくり面会したい」「ケーキを持って行ってホームと一緒に食べたい」といった要望がほとんどだが、面会時の対応に関しての苦情などもあり、都度、対応を検討し、より良い対応に努めている。2か月に1回、居室担当者が入居者の写真を数枚選び、コメントを添えて家族に送付し、近況を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月部会や勉強会を行い、意見交換の場を設けている。また職員との面談が希望者と必要と判断された職員に対し年に一回実施されている。	毎月のグループホーム部会で運営に関すること、ユニット会議でケアに関することなどについて、提案や意見交換が行われている。「入居者の重度化による負担が増加しているため、正職員を入れてほしい」や、外国人職員からは「もっとこういう仕事をさせてほしい」など、意見・要望等は活発に出されており、検討して反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算の届け出・、有期契約職員から正職への登用、有給休暇の取得消化、研修への参加奨励等、職場環境・条件の整備を行っている。又、規程やマニュアルを各部署に設置し閲覧出来るようにしてある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修は、集合での研修も増えてきた為、そちらに参加する機会があった。施設内研修においてはネット配信を利用して定期的に学ぶことが出来ている。またGH内でも集合して勉強会を実施したり、階層別研修も感染対策を実施しながら、集合にての研修が開催されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者も参加する認知症勉強会に参加し、同業者との交流の機会があった。熊本県地域密着型サービス連絡会の情報書を職員に回覧している。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居が2件あり入所前及び入所時に、ご本人と面談し、本人の困り事や不安・心配事などを聞き取り、職員間で情報を共有し、観察を十分に行いながらコミュニケーションを取り、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や困り事、要望などを事前に伺い、入居後も話に耳を傾けながら、安心してもらえる関係づくりに努めている。 また、2ヶ月に1回ご家族へ手紙を送り、日頃の様子や体調などを報告するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントシートの記入し状態の把握と職員間の情報の共有を行い適切なサービスを提供できるようにしており、他のサービスが必要と思われる時は柔軟に対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗濯物干し、掃除等共に実施しており、家庭で生活していた時にやっていたであろう生活動作は、積極的に実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	受診時にはご家族と一緒に頂く事で 協力体制を取っている。また、対応が難しい 事例については、ご家族も共にケア内容を 検討し必要物品を持参して頂く等の協力を して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や入居前に利用していた病 院は継続して利用して頂いている。 行事としてお楽しみ会を開催し、感染対策を 行ったうえでご家族との外食やお散歩を 行ってもらった。 面会に関しても玄関ではあるが継続して 出来ている。	週1回、修道院のシスターが入居者のシス ターのもとに来訪し、ともに祈りを行って いる。また、昔の教え子の面会もある。親戚な どから贈り物が届いた際には、電話やお礼の 手紙を出す手助けをして、できるだけ馴染み の関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	入居者同士の人間関係や性格を理解し、ト ラブル(口論等)が起こらない様に配慮して いる。リビングや食堂で会話がゆっくりとでき る環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	慰霊祭への参加を呼び掛け、参加された方 と現況報告や思い出話をしながら、関係性 を大切にしている。今年は以前の入居者様 の息子様とシスター方が参加された。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居者の方の希望や要望に対しては聞き 取りが可能な為、できる限り聞き取りを行い 希望や要望に沿うようにしている。 意向の把握が難しい時はご本人の仕草や 動作で読み取り本人本位になるよう職員間 で検討している。	自分の意向を表現できる人は少なくなっ てきている。好きなことや昔やっていたことなどを 家族に尋ね、釣りの本やウォーキング用の杖 などを持って来てもらい、好きなことを思い出 し、関心をもってもらうよう促している。洋服な ど買い物のカタログを見るのが好きな人は、 カタログから好きな物を選び、家族に買って 来てもらっている。できるだけ入居者が思い や意向に沿った暮らしができるよう努めてい る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	個人差はあるが、自宅から私物の持ち込み や、本人やご家族からの以前の話などから 状況把握に努め、今までの生活を継続でき る環境づくりを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	入居者の変化は日々の経過記録等にまと め、その時々々の心身状態に合ったケアに努 めている。散歩やレクリエーションなどを心 掛け、気づきについては職員全員で情報共 有に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各居室担当にて3ヶ月ごとのモニタリングを行い、ケアマネを中心に状況把握、気づいたことをユニット会議やモニタリング等を通して、介護計画を作成している。	モニタリングは担当者が3ヶ月ごとに行い、計画の見直しは1年ごとに、家族の意向を踏まえ、ユニット会議に計画案を提出し、職員の意見を聞いて作成している。これまでの生活の延長として過ごしてもらえよう、一人ひとりに応じた計画作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の申し送りと経過記録や日誌の記入をしながらケアマネ・看護師・介護士で連携を図り、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化が進んでいる為に、介護が必要な方が増えており、その時の状況に合わせ柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ルルドカフェと認知症家族介護者の集いは開催できなかったが、畑にて幼稚園児の芋掘りを見学し交流を図ることが出来た。また、火災訓練に2名の民生委員さんをお招きし非常時の協力をお願いした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続してもらい、受診時には近況を担当者から病院やご家族へ伝えたり、必要に応じて付き添いを行う等柔軟に対応している。又、急変の可能性(看取り希望)がある方については、本人及びご家族の意向を確認しながら訪問診療への利用を支援している。	入居前からのかかりつけ医を継続しており、ほとんどが定期的に訪問診療を受けているが、定期的に職員が通院同行する入居者もいる。「緊急時対応マニュアル」を作成しており、入居者に異変が見られた場合は、まずマニュアルに沿って対応し、かかりつけ医に連絡して指示を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護現場に入っている為、連携は普段から取っており、内服等の相談、調整は受診時に上申している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日常の生活情報等を提供するとともに、早期退院に向けて病院関係者との情報交換に努めている。又、退院してからも当事業所で安心した生活を送る事が出来るよう、かかりつけ医との情報交換を密に行い、関係づくりを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時の契約時に当事業でできる支援の内容を書面で説明し、ご本人やご家族の希望を確認している。また、ご本人の病状や心身の状態変化に応じて、適宜、ご本人やご家族の想いに変動がないか確認するとともに、医療関係者との連携を図りながら必要に応じて訪問診療・訪問看護へと移行し、介護職員もチームの一員として安心した支援ができるようになっている。	重度化や終末期の在り方について、入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」で本人・家族に説明し、意向を確認している。かかりつけ医の判断のもと、終末期に入った際には医師から家族に現状や今後の過ごし方等について話してもらっている。看取りの計画書を作成し、家族・医師・看護師等と連携し、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時は対応策を各ユニットで検討し、骨折や誤薬などの行政報告が必要な事故に関しては、部会で再度発生状況を検証し、対応方法や対応策を話し合っている。急変時の対応チャートを目につく所に貼り、焦らず対応できるようにしている。又、緊急連絡先に変更がある場合は随時変更し、電話の横に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月(夜間想定)と11月(昼間想定)に火災訓練を実施(他事業所参加)。その際に地域住民の方や民生委員さんにご参加いただいている。地震や水害時の対応についてはマニュアルを作成し、周知に努めている。	火災避難訓練を年2回、日中・夜間想定で実施しており、同敷地内の他事業所や近くの住民の方・民生委員の参加を得ている。水害時は、本館の外付けのスロープを使い、2階に避難することとしている。備蓄は、消耗品は2週間分、食料は3日分程度確保している。食料は消費期限を確認しながら消費して入れ替えている。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスやユニット会議、勉強会などで声掛けについて見直し、職員同士で工夫しながら入居者の方の性格を理解した上で個々に合った言葉かけを心掛けている。	呼び名は、基本的には苗字にさん付けとしているが、夫婦の方は「お父さん・お母さん」や、下の名前にさんづけなど、場合により呼び慣れた呼び名を使っている。個人のことに、本人の前で大きな声で話をしない、特に排泄確認など本人に聞こえないように配慮している。プライバシー保護について研修も実施しており、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛け・対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を尊重し、日課的な生活ではなく、本人が自己決定出来るように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや希望を尊重し、日課的な生活ではなく、本人が自己決定出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に衣類を選んだり、化粧品の使用やこれまで慣れ親しんだ生活用品を使用している。散髪や染毛なども入居者の希望に応じてご家族と相談しながら職員が支援している。また、訪問美容の利用を開始し、外出が困難な方は利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の準備は職員が行っているが、下膳や片づけを進んでされる方がおられる為、見守りながら行ってもらっている。又、おやつ作りや頂き物のフルーツ等で季節を感じて頂き食を楽しんで頂ける支援を行っている。	食事は本館の厨房でつくっており、ホームでは朝食のご飯だけを炊いている。月2回、本体の誕生会に合わせて行事食が提供されたり、毎月、レクリエーションの日におやつ作りをするなどの楽しみもある。	検食は本体で行っているが、ホーム職員もできれば1人は入居者と同じ食事を摂り、味や食べ易さなど確認することも必要と思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食思が低下している方に対しては、好みを理解し、ご家族と協力しながら、食べられる物の提供を心掛け、状態に合わせた食事形態の変更も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣として口腔ケアができる様に、毎食後声掛けを行って、できる事を理解した上で口腔ケアに繋げている。又、開口が悪かったり歯磨きの理解が難しく細部までの歯磨きができない方に関しては、訪問歯科診療にてクリーニングを行って頂き、その方に合った口腔ケアの方法の指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時の観察をし、必要物品の準備や排便コントロールをする事で、トイレで排泄する事が出来るように、個人に合わせた対応を行っている。	布パンツにパット使用で排泄が自立している方、リハビリパンツ使用の方、夜だけパットを使用する方、おむつ使用の方など、それぞれの状態に応じ、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。Hugを導入し、立位困難な方のトイレでの排泄をし易くしており、職員の負担も軽減している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士による献立作成により、バランスのとれた食事の提供や運動にて自然排便が出来るように緩下剤の調整を行い、個々に応じたトイレで排泄を行ってもらっている。排便確認が不十分な時には、看護師にて触診してもらい排便の確認をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日での振り分けは行っている。時間帯(日中)や順番は柔軟に対応しており、浴槽の種類も本人の身体状況に合わせている。	入浴は少なくとも週2回実施している。一般浴槽と2種類の機械浴を設置しており、入居者の状態に合った浴槽を使用し、全員が湯船に浸ることができる。お湯は毎回入れ替え、それぞれの好きな湯温に調節している。ゆず湯や菖蒲湯なども行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせた室温や寝具の調整を行っており、その人の希望や体調に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と居室担当者が、内服薬の把握と薬の使用及び効果について理解するように努めている。また、内服薬が変更された場合には、服用後の経過観察を行って病院へ報告出来るようにしている。与薬時はご本人と薬の名前を確認し誤薬がないように注意を図り、手渡すだけではなく確実な服薬介助を行っている。また、与薬後の薬包は全員が服用した後与薬忘れがないか確認後に破棄している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事を理解した上での役割(洗濯・食器洗い・掃除等)を行ってもらっている。行事や散歩、カルチャ活動(作業活動)等、季節のある作品を制作し楽しんでもらうことで気分転換等の支援をしている。 また、おやつ作りやレクリエーションの日をつくり実施している(1回/月)。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中の天気や気温を見て入居者様の体調に影響が無さそう時は、少人数ずつではあるが散歩に出ている。 また、お花見や紅葉見学など季節に合わせて戸外での行事も行っている。	日頃は、気候や体調を見て散歩に出かけている。また、今年度は、花見・紅葉見学・初詣などでの外出を行っている。家族との触れ合いを目的としたお楽しみ会では、家族と一緒に敷地内を散歩したり、自宅で食事をしたり、外食をしたり、シスターは修道院に出かけたりと、それぞれの外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族へ確認したが、持たせておきたいというご家族がほとんどなく、ご家族が管理しているか、施設で預かって管理している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂に電話があり、ご親戚の方からの電話を取り次いだり、希望があれば利用できるように支援している。 また、本人が手紙を掛けなくても代筆したものに署名だけしてもらおう等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は、毎日行い清潔を保ち、屋外に咲いている花を飾り、季節感を取り入れている。又、人が集まる場所に関しては定期的に換気を行っている。	デイルーム・食堂は広く、ゆったりとしたスペースが確保されている。テーブル・椅子・テレビなどが置かれ、壁には入居者の作品である習字や季節の貼り絵などが掲示されている。訪問時は、デイルームの大きなテレビを見ている人・談笑しながらお茶を飲んでいる人等、午前中はゆっくりと穏やかに過ごしている様子がみられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士でお話できる様に、リビングにソファを置いたり、居室からは外を眺める事が出来る様に吐き出し窓にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅で使用していた家具等を持参して頂き、コロナ禍以降にはご家族と共に家具の配置を考え、ご本人が使いやすい配置を心掛けている。	各居室の入り口には、手作りのかわいい表札と、それぞれに異なる布で作った暖簾が掛けられており、スタッフの愛情が伺える。室内には、ベッドと洗面台が設置されており、整理ダンス・洋ダンス・衣装掛け・机・椅子・テレビなどが置かれている。キリスト教の祭壇やマリア様の像が置かれている部屋・テーブルの上に色鉛筆と塗り絵の作品が置いてある部屋など、それぞれの意向に合わせた居心地の良い部屋づくりが見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーにし、トイレの場所が分かるように表示したり、居室入口にそれぞれの好みに応じた暖簾をつけたり、生活用品を使いやすい場所に配置し自立した生活が送れるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101774		
法人名	社会福祉法人聖母会		
事業所名	グループホーム聖母の丘 かえでユニット		
所在地	熊本市西区島崎6丁目1番27号		
自己評価作成日	令和6年3月1日	評価結果市町村受理日	令和7年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1		
訪問調査日	令和7年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで明るい環境の中、入居者が穏やかに安心して過ごされることを目標に、職員は、入居者個々の想いを傾聴し、寄り添い、望む生活ができるよう支援している。コロナやインフルエンザ等の感染が流行していても、時間や人数制限、感染対策を講じた上で面会ができるように対応したり、お楽しみ会では各家族に計画を立てて頂き、ご本人とご家族との触れ合いができるよう勧めている。毎月行事やレクリエーション活動を行い、季節感を感じて頂いたり、入居者同士の交流や、楽しみのある時間を提供しており、2か月に1回写真付きのお手紙で、行事でのご様子や入居者の近況をお伝えする事も継続できている。個別ケアで課題が生じた時には職員間で話し合い、ご家族に適宜相談報告し、ご家族の想いを伺いながらご家族と共に入居者を支え合う関係づくりに重点を置いて支援している。入居者の重度化、高齢化により、ご本人やご家族の希望で看取りに取り組み、職員・ご家族、医療関係者と何度も話し合い、協力しながら「ご本人やご家族が望む最期の時」を過ごすことができるよう支援してきた。今年度実施できなかったルルドカフェ(認知症カフェ)が再開できるよう準備し、地域住民との交流活動や啓蒙活動に取り組んでいきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を自然な形で意識付けできるように、玄関とキッチンに掲示した。また、理念唱和も1回／月の部会の際に皆で行っており、理念を共有し実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で限定的な活動しかできなかったが、地域の方が事業所の畑を利用して野菜を作られたり、隣接する幼稚園の子供たちが芋の苗植えから収穫まで行われたのでその様子を見守り交流した。日常的な交流は行われていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和2年2月からコロナ感染防止対策の為認知症カフェ(ルルドカフェ)やルルドホールを無償で提供し利用した方々の慰問を中止している。認知症の理解や支援方法を地域の人に向けて活かすことはできなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を実施して状況報告を行っている。入居者のご家族は参加されているが、入居者の参加は実施できていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	厚生労働省や市からの感染対策等についての通達文書があれば、チームス掲示板で閲覧できるようになっている。事故報告や相談等がある時以外は市町村担当と直接連絡を取る事はない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をテーマにした勉強会があり職員は参加している。建物の構造上防犯・安全対策も兼ねて玄関は常に施錠がなされている。お尻を搔いて自傷行為がある方の対応も、身体拘束にならない様話し合って対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてオンライン研修や虐待についてのアンケートも実施されている。言葉遣い及び職員同士が声を掛け合いお互い観察することで虐待の無い利用者の立場に立ったケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用している入居者もあり、学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入所時の契約時は管理者により十分な説明を行っており、理解・納得して頂いている。料金改定時は説明会を開催し、ご家族に同意を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に意見や要望を尋ねたり、家族の面会時には日頃の様子を伝え、意見や要望がないか伺い、それを反映させるよう努めている。地域運営推進会議には入居者の参加はなかったが、ご家族の参加もあり、意見を伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長及び管理者は職員会議やチームス（ネット掲示板）、部会等で職員に運営に関する情報を伝えており、職員の意見を聞く機会もある		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算や個々の能力や努力が給与に反映するように実施されており、職員の要望や意見をもとに業務改善、職場環境を整えようと努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ネット配信の研修への参加も実施されており、各自随時研修が出来る環境にある。内部では外部講師による階層別研修や全職員参加の介護技術研修も実施されている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県地域密着型サービス連絡会の情報書を職員に回覧しているが、直接同業者との交流をする機会はなかった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面談し、入所時には本人から話を聞き、少しでも過ごしやすい環境の提供や安心するようなケアが出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所時には家族にも来て頂き、家族とよく話をして、家族の意向を確認し、信頼関係ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にかかりつけ医歯科医等の医療面での対応や、物品の購入等の他のサービスを含めた必要な支援をどうするか話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	重度の方が多いが、出来る方には、洗濯物たたみや台ふき、茶碗洗い等出来る事をして頂いている作業をして頂いた時には感謝の言葉を伝え、共に生活しているという事を感じてもらおうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外来受診もご家族に支援して頂いたり、ご本人への支援を検討する時にご家族に相談して意見を伺うようにしている。各家族と過ごす時間を設けるように努めた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や贈り物があつた時はお礼の手紙や電話の支援をし、馴染みの方とやり取りが出来るよう支援している。また時期によってはご家族から要望があれば、自宅に帰れる様支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性や性格を理解し、利用者同士が話せるような状況を作ったり、レクリエーションや行事で他入居者と交流できりようにしている。1人で居る時は声かけし、トラブルになりそうなどときには、職員が間に入りお互いの想いを傾聴し安心できる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	慰霊祭へのご案内を実施しており、慰霊祭に来られた家族と話をしたり、生前のお写真を渡したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に思いや暮らし方の希望・意向を尋ねてケアプランにも反映させているが、尋ねても返答の難しい方にはご家族のご意向や日頃の様子から読み取ったりして、困難な場合も本人本位になるよう職員同士で検討して対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症進行もあり、本人からの情報収集は難しい所もあるが、ご本人尋ねたり、ご家族に尋ねて情報収集出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定や心身の状態を観察し、チームで一人一人の状態の情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び介護職員や家族の意見を伺いながら、モニタリングやケアプランの作成を行っている。利用者の状態の変化に合わせてユニット会議の実施や必要時カンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全体で観察と気づきが大切であることを意識し、記録や申し送りに残して情報を共有しケアやケアプランに活かしている。気づきやケアの工夫は職員間で情報共有している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外来診療から訪問診療への移行支援、訪問歯科診療の紹介、福祉タクシーの手配、訪問理美容、家族の代わりに職員が受診介助や買物支援をしたり、パットや紙パンツの配達支援を紹介したり、通販で本人に品物を選んでもらったり、状況に応じて必要な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍や重度化により外出や地域の方々との交流がほとんどなかったが、可能な限り外来受診や美容室等を利用して頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の意向やこれまでかかりつけにしていた医療機関を尊重し、状態変化があれば書面や電話で報告したり、医療機関と連携してケアを実施している。外来受診が難しくなった利用者に対しては、訪問診療の移行がスムーズに出来る様支援した。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に異常がある時や薬の屯用等も職場の看護師に報告・相談するようにしている。医師とのやり取りも可能な限り、職場の看護師に対応してもらうようにし、適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	令和6年4月に退院された方の入院中には病院に伺い様子を確認し、早期退院できるよう相談したり、退院時のカンファレンスに参加し、病院の医療従事者と連携を取るなど、病院側との情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期のあり方について、本人または家族等と話し合いは行っている。今年度は看取りの方はいなかったが、利用者が重度化したり、終末期と診断された時は今後の対応をご家族・医師とも話し合いを行い、そ事業所出来る事を十分に説明し、医師やご家族と連携して実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の勉強会(WEB研修)は実施している。緊急時対応シートの作成や事故後の対応策の話し合いは実施している。応急手当や初期対応の実地訓練等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練(他部署や地域の方やご家族も参加あり)、非常災害時の対応(WEB研修)は実施している。年に2回目の火災訓練を行っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症ケア委員の取り組みにて皆で意見を出し合い、改善すべきケアの目標を掲示し取り組んでいる。またWEB研修も実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや意向を尊重し、意向を尋ねて希望に沿った支援を心掛けている。重度化で自分の思いや意向を言えない方には、本人の様子をやり取りから推察したり、家族の意見も伺いながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を確認し、本人のペースに合わせる様努めている。本人の意向を確認する事が難しい場合は、表情や様子を確認しながら支援している。職員減少や職員の入れ替わりも多く、限られた時間の中でその人らしい暮らしの支援の難しさも感じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に衣類を選んでもらったり、スキンケアを介助したり、できる能力に応じてその人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化で理解力低下、立位・歩行不安定の方が多く、配膳・下膳は職員が行っている。食器洗い台拭きやお盆拭きは利用者と一緒にしている。その日のメニューを伝えたり、季節感のある食事を提供している。本人が食べたい物があればご家族に依頼して提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立の食事を提供しており、職員が食事・水分量を記録し各利用者の状態を把握し、必要な量を確保できるよう支援している。また、咀嚼・嚥下が低下した時は、かかりつけ医や歯科医師に相談して、その方に適した食事形態や水分を提供している。月一回の体重測定を行い栄養状態の確認をしている。施設の食事食べなくなった時は、ご家族に相談してご本人が好きな物や栄養補助食品を提供して頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で口腔ケアが出来る方には声掛けや誘導を行っている。毎食後、全利用者が口腔ケアを実施出来るよう支援している。口腔ケアの際は口腔内の観察をおこなっている。歯科医師とも連携を取り、相談や指導も受けており、その人に合った口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを観察し汚染や排泄の失敗が減少し、日中は小さいパットで対応できる様、出来る限りトイレで排泄できる様に支援している。トイレ介助も一人ひとりの能力に応じ、出来るところはして頂く様な支援をしている。立位不可の方が安楽にトイレ介助できるようにHUG(立位介助機械)を導入している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努めたり、身体を動かしたり、トイレに誘導し腹部マッサージ等を行ったりしている。歩行訓練等で体を動かす事も支援している。職場の看護師に報告・相談したり、医師と相談して便秘薬の調整や坐薬の使用をすることで排便コントロールに努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の曜日は決めてはいるが、1人ひとり利用者の意向を確認し、体調や気分に応じて入浴予定を変更し、個々に沿った支援を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムを尊重し、日中でも眠そうな時や疲れている様子があれば、居室へ誘導する等状況に合わせて安眠や休息の環境を整えるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服管理は看護師が行い、処方箋をファイルに挟み薬の内容を介護職員にも理解できるようにしている。内服の追加や変更があった時は情報を共有し、状態を観察するようにしている。介護職員と看護師が連携して内服支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのできることでの役割を持ち、お手伝いをして頂いている。嗜好を尋ねて、好きな音楽をかけたり、テレビやYouTubeを視聴したり出来るようにしている。レクリエーションや季節感を取り入れた行事等を行い、楽しんで頂いている。信者の方の為にシスターの訪問もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の外出希望の訴えは少ないが、家に帰りたと言われる方もおられる。回数は多くはないが、家族と外出したり、自宅に帰ったり、外食を楽しまれる機会もある。気候が良い時は屋外の散歩も実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しい方ばかりなので、お金の所持・使用は対応していないが、個別で何か必要なものがあれば家族に持ってきて頂いている。ご家族の希望で少額の預り金を行い、適宜職員が購入支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をしたり、電話したいと希望する方もいない。本人宛にきた手紙は本人に渡したり、読んであげたりしている。お手紙を書きたい方には支援を行い、手紙のやり取りが出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内には花や植物を置いたり、季節感がある飾りつけを行っている。共用の空間、居室等は毎日清掃し使いやすいようにしている。室内も明るく、室温も過ごしやすい適温になるよう管理している。冬場は加湿器を設置したり、定期的に温度、湿度、換気を確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分で移動できる方は好きな場所に移動されている。部屋に行きたい時は自由に出入りができるようにしており、ドアもあり、プライバシーが守られている。利用者同士の会話に気を配り、気の合う人を隣に座ってもらったり、思い思いに過ごせるよう環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人にとって居心地のいい居室になるように、ご家族が持ってこられた物や写真等を飾ったり工夫している。掃除やシーツ交換時に本人がセットしたものを移動したりしない様配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間トイレに移動される方にはトイレに近い居室になるように配慮している。居室やトイレや浴室の場所が分かりやすいように張り紙もしている。歩いて移動される方に、障害物が無いようにしている。		